

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200630		
法人名	株式会社 オレンジ		
事業所名	グループホームなかよし		
所在地	千葉県松戸市小山97-8		
自己評価作成日	令和7 年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和8年 1 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自宅での暮らしとおなじように穏やかに過ごせる家」という理念のもと、少人数の家庭的な環境の中 ご自宅で過ごしているような暖かさのある雰囲気があります。また季節ごとに皆さんで飾り付けをしたり イベントごとにお祝いをし季節を感じられるお食事をしたりして日々楽しく穏やかに過ごしながら います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2か月に1回、広間で認知症カフェが開かれており、近隣の高齢者を招き、利用者も一緒になってレク リエーションを楽しんでいる。また個々の利用者ごとの現存能力に応じて、食事作りや部屋の掃除、洗 濯物の整理を職員と一緒にしており、ホームがアクティビティを通して利用者の身体機能や認知機能 の維持に努めている事が伺える。法人本部からは毎週担当者がホームを訪問し、施設長や職員とホー ムの状況や要望事項についてコミュニケーションをとっている。現場と本部が一体となって運営されて いるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 株式会社 オレンジ	理念を誰でも見れるところに掲示しミーティング等で職員と共有。	「自宅での暮らしと同じように穏やかに過ごせる家」の理念の下、利用者の意思を尊重して支援をしている。	
2	(2)	グループホームなかよし 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩等を通じて地域の方々と交流している。	散歩や買物での外出がきっかけで地域の人々と顔なじみとなり、クリスマス会や運動会に招待している。お花をもらうこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加等、関わりが少なかった為、次年度は関わりを持っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日ごろのご入居様の様子を報告しご意見を頂いている。	運営推進会議は2か月に1回(年6回)開催し、利用者、地域包括支援センター、民生委員、市担当者ほか、サービスに知見を有する者として同業者が参加している。会議録は全家族に送られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して協力関係を気づけるよう努めている。	市の窓口は高齢者支援課。市の集団指導やグループホーム連絡会にも参加して意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束に関して全体の理解を深める。	身体拘束適正化のための指針は作成済み。適正化委員会は年4回独自に開催している。年間研修計画に身体拘束廃止のための研修を前期・後期で年2回計画し、実施している。身体拘束が必要な入居者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて高齢者虐待防止に努め、日常生活では全身状態を観察するなど異常の早期発見に努める。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者様に成年後見制度をご利用の方がいるので必要時には情報を頂いたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、ご家族様に丁寧にご説明し、ご理解と、ご納得頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様達としっかりとコミュニケーションをはかりお気持ちに寄り添っていく。運営推進会議でのご家族様のご意見や質問を真摯に受け止め運営に反映していく。	家族との連絡はメールやライン(LINE)を利用し、緊急の場合は電話も利用している。家族アンケートの結果を参考に職員間で話し合い、運営の改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	就業中、ミーティング時などに意見交換や改善したほうが良い点を話し合っている。	職員会議では、スムーズな連携と対応が出来るようにシフト体制の見直しや仕事の分担について常に話し合い、実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等を把握し個々が向上心を持ち、やりがいのある働きやすい職場環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力を把握し、研修やミーティングを通しそれぞれのがみんたと成長できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のケア会議や推進会議に参加し交流の機会を設けている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時にはコミュニケーションをしっかりと ご本人様のお気持ちを汲み取れるよう心がける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前からご家族・関係者等から情報を聞きとり、不安や要望にお応えできるように取り組む。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向を把握し、ご本人様に必要なサービスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとりながらご無理のない範囲での家事など個人の状態に合わせた役割をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはメール等で近状を報告するなどをし、双方に安心して頂けるよう努めている。 また、面会や外出の時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様のご家族様や馴染みの方に面会に来ていただく等している。	面会者は殆どが家族となっている。本人の好物を持参しての10年ぶりになる孫の来訪では、ひとときをゆっくり過ごして頂いた。節分や雛祭り・近くの坂川べりの花見等の恒例催事を通して季節を感じて頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さんリビングでお過ごしになられています。席の配置を替えるなど皆さんが関わり合えるよう努めている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもご相談頂けるよう関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の対話の中や表情からご本人様の思いやご希望をできるだけ把握しご意向に沿えるよう努めている。	日常的にコミュニケーションを図りその中から、思いや希望等を汲み取り、希望等の実現に向けた支援に努めている。家族アンケートでも「よく理解している30%」「まあ理解している70%」との回答が寄せられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や環境、馴染みの暮らし方を尊重し、職員同士で共有しその人らしい生活になるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックやコミュニケーションで健康状態、心身状態を把握している。 また出来る家事などはお願ひ有する力の現状維持、向上を努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で日々ケアについて話し合い課題をみつけより良いサービスができるようにしている。 また関係者の方達にもアドバイスを頂き計画に反映している。	日報や申し送りノート・毎月のミーティングでの職員間の意見交換及び必要に応じ医師や看護師の意見を伺う等からニーズを引き出し、現状に即した介護計画を作成している。状態変化時は都度見直した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは日報に記載し気づいたことや特記事項は申し送りノートに記入し職員全員で共有し計画、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご本人様の状況にあった柔軟な支援ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の残存能力を生かしつつ楽しく安全で豊かな暮らしができる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の訪問診療、緊急時の対応も24時間体制で行っている。必要時には病院受診も可能である。	入居に際しホームのかかりつけ医に切り替えをお願いしている。医師・看護師(24Hオンコール対応)・薬剤師等の受け入れがある。また口腔内の保清に注力し、歯科医・歯科衛生士の来訪で、管理や助言を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師間でタブレット等を利用して状況を共有し適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院と状況を共有し連携して安心して施設に戻るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際、重度化や見取りの方針についてご説明し、ご理解いただき意を確認している。	入居時に「医療行為が不必要の場合は看取りを行う」旨の事業所方針を説明している。重度化した場合に再度意思確認を行い医療機関や他の施設への移動等の希望を聞き取り、対応に努めている。今年度は看取りの方はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡の優先順位に従い、主治医、看護師との連携により適切な対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練を行い、消防署参加の場合もある。	消火訓練の実施と、近くの江戸川と支流の坂川の氾濫(水害)に備えた避難訓練は必須であり、訓練では「高い所へ避難」で2階に避難を実施した。階段歩行困難な方には、階段昇降機が整備されている。BCPは作成され見易いところに常置、備蓄は2日分用意されている。	

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛け、対応に努めている。	排泄や入浴時等は、特に誇りやプライバシーに配慮し個々に応じた声掛け・対応に努めている。また職員は「利用者は目上の方・人生の先輩」「ため口はしない」等の意識のもとに支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が何をしたいか意見を聞いたり、選択肢を提示するなどしてご本人様自身で決めてもらうなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間配分は決まっているが、それぞれのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容にてカットを行ったり、季節や温度に合った服装で生活している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時はその行事に合った食事を提供している。常時それぞれに合った食事形態で皆さんで食事をしている。準備、後片付けもご入居者様と共にやっている。	日常食の他に、季節毎の行事食や誕生日会の食事、皆で作るおやつ作り等があり、美味しく食べて健康維持に繋げている。出来る方は下拵えや片付け等役割意識を持って参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー・摂取量・水分量を日報に記録し、個々の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行い清潔を保持している。訪問歯科と衛生士の訪問で管理と助言を受けている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間で誘導や個々のタイミングを見て誘導を行う。	日中はなるべくトイレでの排泄を支援し、個々の状態を見てプライバシーに配慮した声掛け・誘導を行っている。夜間は居室に常置しているポータブルトイレを使用の方が多く見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や食物繊維が多く含む食材を使う等食事での便秘予防に取り組む。また排便も記録し医師と共有する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴している。ご本人様のペースで入浴、着替えができるよう支援している。	週2回の入浴日で、当日は全員の入浴介助を行っている。冬季にはゆず湯で温まって頂いた。ヒートショックや乾燥肌に留意した対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい方はソファで休んでもらう。就寝時間は個々のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の確認、状態の観察を看護師、主治医、薬剤師と共有し、職員全員が薬への理解を深め服薬支援をするよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、得意なことに合わせてレクなどを決める。また、お散歩やお手伝いなどをしていただき気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物やお散歩、季節の物を見に行く、ご家族様と外出するなど対応している。	日常的にはホーム周辺の散歩を日課としている。坂川べりの桜や緑を楽しんでいる。また家族と一緒に出掛ける方もある。散歩途中に挨拶を交わす住民の方も増えており、それがきっかけで認知症カフェに参加される方もある。	

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、お金を預かって施設で預かっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしていただいたり手紙を書いたり支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔を保ちご入居者様が快適に過ごせるよう努めている。季節や行事の飾り付けなど共に行い季節感を一緒に楽しむ。	利用者が一日の大半を過ごすリビングは、南向きで太陽が降り注ぎ冬でも暖かい。掃除が行き届き清潔なリビングには、季節に応じた利用者と職員の合同作品等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的にレイアウトを変えたりなどして皆さんとかわわり楽しく過ごせる様に心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際、馴染みの物や愛着があるものをお持ちいただき心地の良い空間になるよう心掛けている。	タンスやテレビ等の使い慣れた好みの物を持ち込み、またポータブルトイレを置く方も多い。出来る方は職員と一緒に掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の能力を活かし、できることは無理なく行ってもらえるように見守り支援をする。また安全面には気を付けつつ過介護にならないように努める。		